

バルク容器による供給設備の技術上の基準に関する説明書

（貯蔵能力が500kgを超え、3000kg未満のもの）

項 目		条 項 規則19条		対 応 事 項			
バルク 容 器	液 取 入 バ ル ブ	19条 1 号	イ	□カップリング用液流出防止装置の取り付けた液取入バルブ			
	ガ ス 取 出 バ ル ブ		ロ	□ ガス放出防止器又は緊急遮断弁の取り付けたガス取出バルブ □ 管の損傷防止措置			
	液 取 出 バ ル ブ		ハ	□ ガス放出防止器又は緊急遮断弁の取り付け □ 集合管等に接続しない。			
	均 圧 バ ル ブ		ニ	□カップリング付き			
	液 面 計		ホ	□液面計の設置			
	過 充 填 防 止 装 置		ヘ	□過充填防止装置			
	附 属 機 器 の 保 護		ト	□ふた付きプロテクターでの保護			
	ガ ス 名 等 の 表 示		チ	□ L P ガスの旨及び火気厳禁の朱書き			
	緊急連絡先の表示		リ	□緊急連絡先（ ）			
	腐しょく防止措置		ヌ	□腐しょく防止措置			
	転倒転落防止措置		ル	□スカート又はサドル等を基礎に設置			
	基 礎		ヲ	□水平かつ地盤面から 5 cm以上			
	車両の接触防止措置		ワ	□自動車等車両が接触しない措置			
	安全弁の放出管		カ	□安全弁の放出管の設置			
1 t 未満のみ	火 気		ヨ	□火気との距離 m（法定：2m超） □屋外設置 隔壁□ 無□ 有 ※ 図面添付			
	容器の温度管理		タ	□常に40℃以下に保つ措置			
バルク 容 器 （1 t 以上 3 t 未満のみ記入）	保 安 距 離	19条 2 号	イ		法 定	実 際	緩和の必要性
	保 安 距 離 緩 和			第 1 種	16.97 m	m	有 無
				第 2 種	11.31 m	m	
	火 気		ロ	□火気との距離 m（法定：5 m以上） □漏えいしたガスの流動防止 ※ 図面添付			
	屋根又は遮へい板		ハ	材料（ ） ※図面添付			
	消 火 設 備		ニ	消火器（A－ ， B－ ） 本			
	基 準 適 合		ホ				

バルク 容 器	漏 え い	19条4号	☐ バルク容器は、漏えいがないものであること。
	監 視 シ ス テ ム	19条5号	☐ ガス漏れ検知器を設け、漏えい情報等を常時監視するシステムと接続すること。
	滞 留 し に く い 構 造	19条6号	☐ バルク容器と調整器の間で液状の液化石油ガスが滞留しにくい措置を講ずること。

バルク 容 器	調 整 器 (2次側 有・無)		18条 20号	ハ	☐ 調整圧力 KPa ～ KPa (法定：2.3KPa以上、3.3KPa以下) ☐ 閉そく圧力 KPa (法定：3.5KPa以下)	
	緊 急 遮 断 装 置		18条21号		☐ 供給管と接続した貯蔵施設ごとに、これに近 接して緊急遮断装置を設置すること。 ※図面添付	
	体積販売の設置方法		18条 22号	イ	☐ 流量遮断機能付ガスメーター設置 } どちらか	
				ロ	☐ ガス漏れ警報器 (ガス遮断連動) } でよい	
				ハ	☐ 耐震遮断器	
	供給管耐圧試験	高圧側	19条	イ	☐ 2.6MPa以上であるもの	
中圧側		8号	ロ	☐ 0.8MPa以上であるもの		

特定液化石油ガス設備工事に該当する場合

施工後の表示	法38の11	☐ 有り ☐ 無し
表示の方法	規則116条	貼付場所 供給管、配管、その他 () ☐ 表示板サイズは規則様式59のとおり
表示の内容	規則117条	☐ 特定液化石油ガス設備工事事業者の氏名又は名称 ☐ 施工年月日又は工事番号 ☐ 連絡先

	設 備 の 種 類	規 格 等		
バルク 容 器	貯 蔵 設 備	公称貯蔵量 () トン 設計圧力 () MPa 内容積 () m ³ 製造番号 () ※図面添付		
	気 化 器	型式 () 処理能力 () Kg/H 製造番号 () 製造年月 () 年 () 月		
	調 整 器	区 分	1 次 側	2 次 側
		型 式		
		処 理 能 力	Kg/H	Kg/H
		製 造 年 月	年 月	年 月

- (記載要領)
- 該当しない欄は抹消すること。
 - 対応事項は、必要によって別紙に説明書を添付すること。
 - 該当する口には✔を付し、()には数値又は説明を記入すること。